

# A5000/A4000 Editor マニュアル

## 目次

A5000/A4000エディターとは? .....	2
A5000/A4000エディターの起動.....	3
メニューバー .....	4
メモリーリストウィンドウ .....	6
ツールバー .....	7
プログラムエディットウィンドウ .....	8
サンプルエディットウィンドウ.....	13
ツールバー.....	24
OMSの設定(Macintoshをお使いのお客様へ) ..	25
トラブルシューティング .....	27

- 市販の音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- このソフトウェアおよびマニュアルの著作権はすべてヤマハ株式会社が所有します。
- このソフトウェアおよびマニュアルの一部または全部を無断で複製、改変することはできません。
- このソフトウェアおよびマニュアルを運用した結果およびその影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- このファイルに掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのもので、実際の仕様と異なる場合があります。
- 「MIDI」は社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- このファイルに掲載されている会社名および商品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

このマニュアルは、お客様がWindows/Macintoshの基本的な操作方法について十分おわかりいただいていることを前提に書かれています。Windows/Macintoshの操作方法については、Windows/Macintoshに付属のマニュアルをご参照ください。

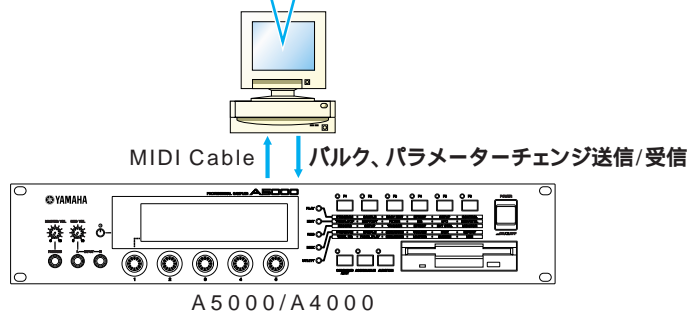
A5000/A4000エディターを使用するために必要なコンピュータ環境、機器の接続、A5000/A4000エディターのインストールについては、別冊の「インストールマニュアル」およびご使用のMIDI機器に付属の取扱説明書をご参照ください。

このファイルはA5000 EditorとA4000 Editor(Windows版/Macintosh版)共通のマニュアルです。操作の説明には、おもにA5000 Editor(Windows版)の画面を使用していますが、異なる機能はそのつど説明してあります。お買い求めになった機種をご確認のうえ、お読みください。

# A5000/A4000エディターとは？

A5000/A4000 Editor(以下エディター)は、A5000/A4000のプログラムやサンプルバンク、サンプルに関するさまざまなパラメーターを、視覚的に捉えながら設定することができるソフトウェアです。

**NOTE** Windows版のエディターは、XGworks(lite)のプラグインソフトです。ご使用には、XGworks(lite)が必要です。



# A5000/A4000エディターの起動

エディターのインストールと必要な接続を行なったあと、以下の操作でエディターを起動します。

## Windows98/95の場合

1. XGworks(lite)を起動します。
2. アプリケーションウィンドウのメニューバーの[プラグイン(P)]メニューをクリックし、プルダウンメニューから、A5000をお使いの場合は[A5000 Editor]を、A4000をお使いの場合は、[A4000 Editor]を選択します。

**NOTE** エディターでの操作をA5000/A4000に対して有効にするためには、MIDI出力ドライバなどの設定が必要です(P.7)。

## Macintoshの場合

**NOTE** Macintoshでエディターをご使用になる場合は、アップルメニューのセレクトでApple Talkを[不使用]の状態にしてお使いください。

### A5000をお使いの場合

インストール先の「YAMAHA Voice Editor」フォルダを開き、「A5000 Editor」フォルダの中の「A5000Editor」アイコンをダブルクリックします。

### A4000をお使いの場合

インストール先の「YAMAHA Voice Editor」フォルダを開き、「A4000 Editor」フォルダの中の「A4000Editor」アイコンをダブルクリックします。

# メニューバー

メニューバーには、さまざまな編集機能や設定機能が用意されています。各メニュー名をクリックするとプルダウンメニューが表示され、その中から必要な機能やコマンドを選択できます。選択できない機能はグレー表示されます。

**NOTE** 各メニューの中からよく使うメニューはツールバーに、アイコンボタン化されています。

**NOTE** エディターをWindowsでお使いのかたは、XGworks(lite)に付属の取扱説明書もご参照ください。

## ファイル



### 閉じる(Macintoshのみ)

ウィンドウを閉じます。タイトルバーのクローズボックスと同じ機能です(メモリーリストウィンドウを閉じることはできません)。

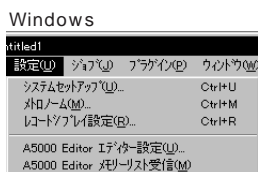
## 編集



### A5000(A4000) Editor エディット(エディット)

ツールバーのエディットボタンと同じ機能です(P.7)。

# 設定(Windows)/MIDI(Macintosh)



## A5000(A4000) Editor エディター設定 (エディター設定)

ツールバーのエディター設定ボタンと同じ機能です(P.7)。

## A5000(A4000) Editor メモリーリスト受信 (メモリーリスト受信)

ツールバーのメモリーリスト受信ボタンと同じ機能です(P.7)。

## OMSポート設定 (Macintoshのみ)

エディターのOMSポート設定画面を開きます。詳細は「OMSポートの設定(P.26)」をご参照ください。

## OMS MIDIセットアップ (Macintoshのみ)

OMS MIDIセットアップ画面を開きます。詳細はOMSに付属のマニュアルをご参照ください。

## OMS スタジオセットアップ (Macintoshのみ)

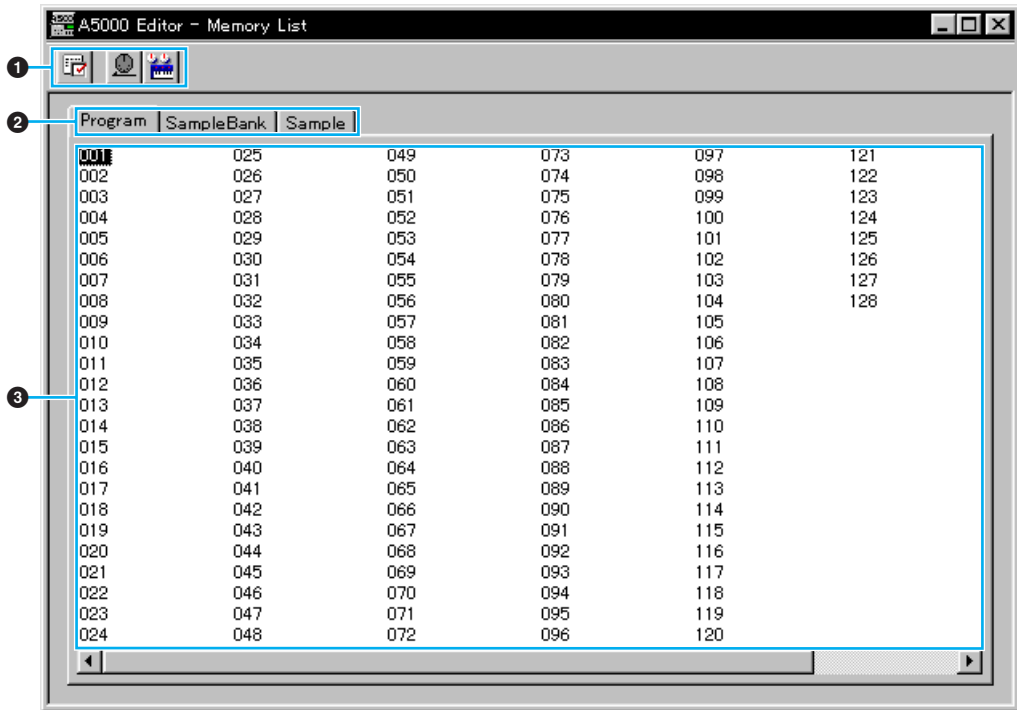
OMS Setupを起動して、設定画面を開きます。詳細はOMSに付属のマニュアルをご参照ください。

# メモリーリストウィンドウ

エディターを起動すると、次のようなメモリーリストウィンドウが表示されます。

メモリーリストウィンドウは、A5000/A4000の本体メモリーにロードされているプログラム、サンプルバンク、サンプルを一覧表示します。メモリー切り替えタブをクリックすることによって、リストに表示させる内容を切り替えることができます。

いずれかのプログラム名、サンプルバンク名、サンプル名をダブルクリックするか、一度クリックして選んだあと、ツールバーのエディットボタンをクリックすることで、選んだプログラム、サンプルバンク、サンプルのエディットウィンドウを開くことができます。



## ① ツールバー

各機能を実行するためのボタンが置かれています(P.7)。

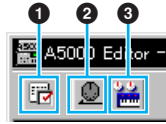
## ② メモリー切り替えタブ

リストに表示されるプログラム、サンプルバンク、サンプルを切り替えます。

## ③ リスト

各プログラム、サンプルバンク、サンプルが表示されます。スクロールバーを使ってリストをスクロールすることにより、現在リストに表示されていないプログラム、サンプルバンク、サンプルを表示させることができます。

# ツールバー(メモリーリストウィンドウ)



## ① エディター設定ボタン

[エディター設定]ダイアログを開きます。

### [エディター設定]ダイアログ

エディターでの操作を、A5000/A4000に対して送信できるようにセットアップします。クリック/タイプ操作で各項目を設定し、[OK]をクリックするとダイアログが閉じ、設定が有効となります。操作を中止する場合には[キャンセル]をクリックすると、もとの設定のままダイアログを閉じます。



- ① 出力ポート.....ボックスをクリックすると表示されるドロップダウンリストの中から出力用ポートを選択します。ここで設定したポートに対応したMIDI音源に対して、エディターでのコントロールが有効になります。XGworks(lite)で使用しているポートの中からA5000/A4000に対応したポートを選んでください。

**NOTE** Macintoshをお使いの場合、MIDI Outの設定はOMSポート設定で行ないます。後述のOMSの設定(P.26)をご参照ください。

- ② MIDI Ch(MIDIチャンネル) .....エディットウィンドウのキーボード(鍵盤)をクリックしたときのノートオンのチャンネルを設定します。
- ③ Device No(デバイスナンバー) ..システムエクスルーシブデータの送受信(バルク送受信)を行なうために設定するナンバーです。このナンバーをA5000/A4000のデバイスナンバーと同じものに合わせます。

## ② メモリーリスト受信ボタン

A5000/A4000上のプログラム、サンプルバンク、サンプルのデータをまとめてバルク受信します。

## ③ エディットボタン

リスト上で選ばれているプログラム、サンプルバンク、サンプルのエディットウィンドウを開きます。

# プログラムエディットウィンドウ

プログラムエディットウィンドウでは、A5000/A4000のプログラムに関するさまざまなパラメーターを簡単に設定することができます。

- プログラムエディットウィンドウでの設定は、MIDIを通じてリアルタイムでA5000/A4000に送信されます。
- 各パラメーターについての詳細は、A5000/A4000の取扱説明書をご参照ください。

## ① ツールバー

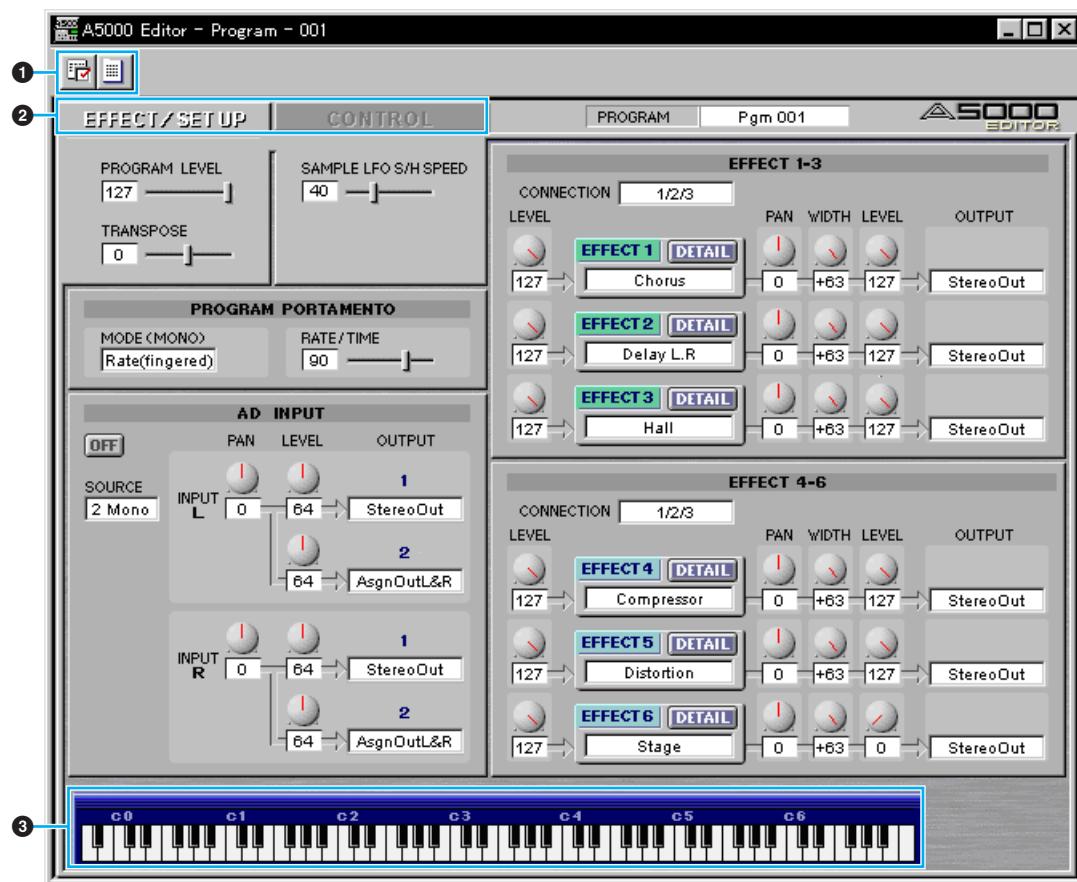
各機能を実行するためのボタンが置かれています(P.24)。

## ② EFFECT/SET UP (エフェクト/セットアップ)、CONTROL (コントロール) タグ

プログラムエディットウィンドウの各ページへ移動します。

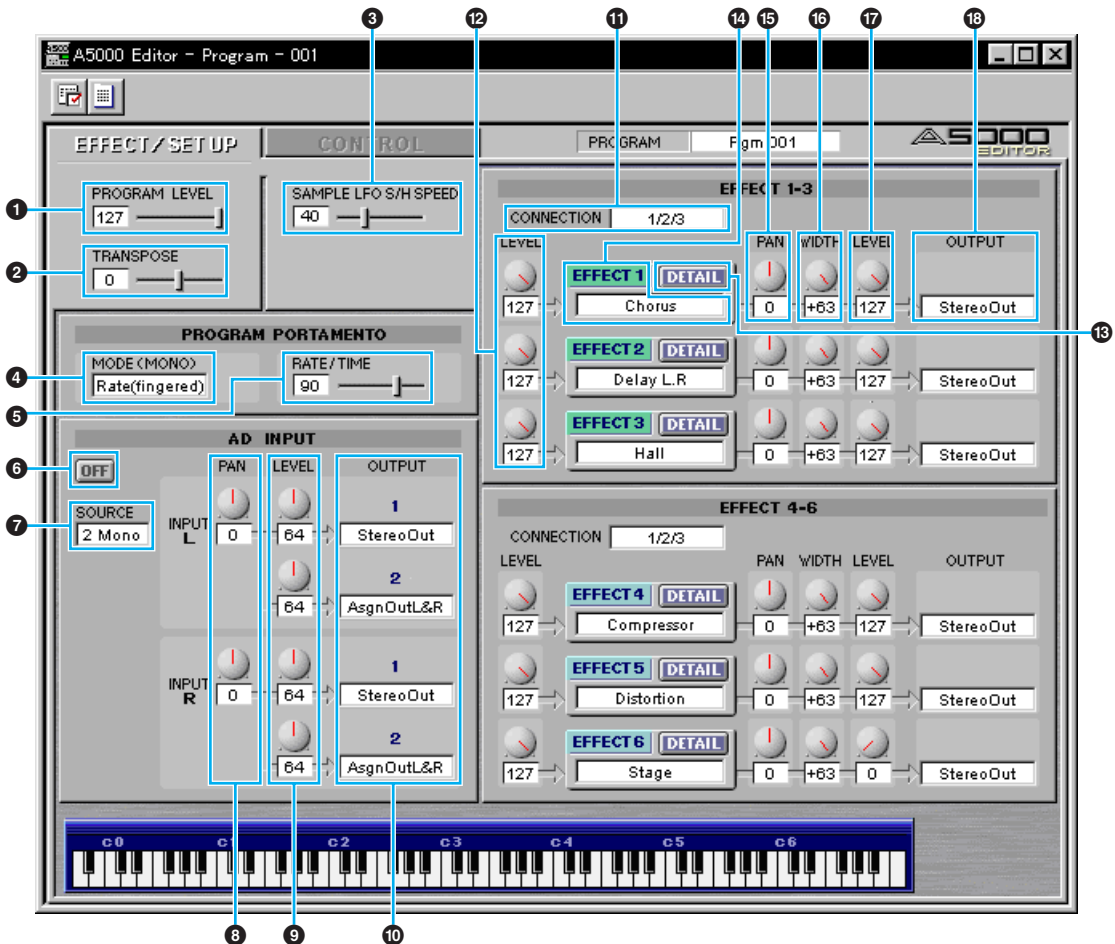
## ③ 鍵盤ボタン

クリックまたはドラッグすることで、エディットの結果を聞くことができます。





# EFFECT/SET UP (エフェクト/セットアップ)ページ



- ① PROGRAM LEVEL (プログラムレベル)  
プログラムの音量を設定します。
- ② TRANSPOSE (トランスポーズ)  
プログラム全体の音程を半音単位で設定します。
- ③ SAMPLE LFO S/H SPEED (サンプルLFO S/Hスピード)  
サンプルLFOのS/H波形の周波数を設定します。値が大きいかほどスピードが上がります。

## PROGRAM PORTAMENTO (プログラムポルタメント)ユニット

- ④ MODE(MONO)  
プログラムポルタメントのモードを選択します。カッコ内のモードは、プログラムポルタメントを使用しているサンプルがモノモードの時のみ有効です。
- ⑤ RATE/TIME (レート/タイム)  
プログラムポルタメントの変化速度または変化に要する時間を設定します。

## AD INPUT (ADインプット)ユニット

- ⑥ AD INPUT ON/OFF (ADインプットオン/オフ)  
ADインプット機能の有効・無効を設定します。
- ⑦ SOURCE (ソース)  
ADインプットの入力ソースを設定します。
- ⑧ PAN (パン)  
ADインプット機能で入力された信号の定位を設定します。ソースが2Monoに設定されていると、INPUT LとINPUT Rの両方について別々に設定が可能です。
- ⑨ LEVEL (レベル)  
アウトプット1、2の出力音量をそれぞれ設定します。ソースが2Monoに設定されていると、さらにINPUT LとINPUT Rの両方について別々に設定が可能です。
- ⑩ OUTPUT (アウトプット)  
ADインプット機能で入力された信号の出力先を設定します。アウトプット1、2のステレオ2系統の出力が可能です。ソースが2Monoに設定されていると、さらにINPUT LとINPUT Rの両方について別々に設定が可能で、合計でステレオ4系統の出力が可能です。

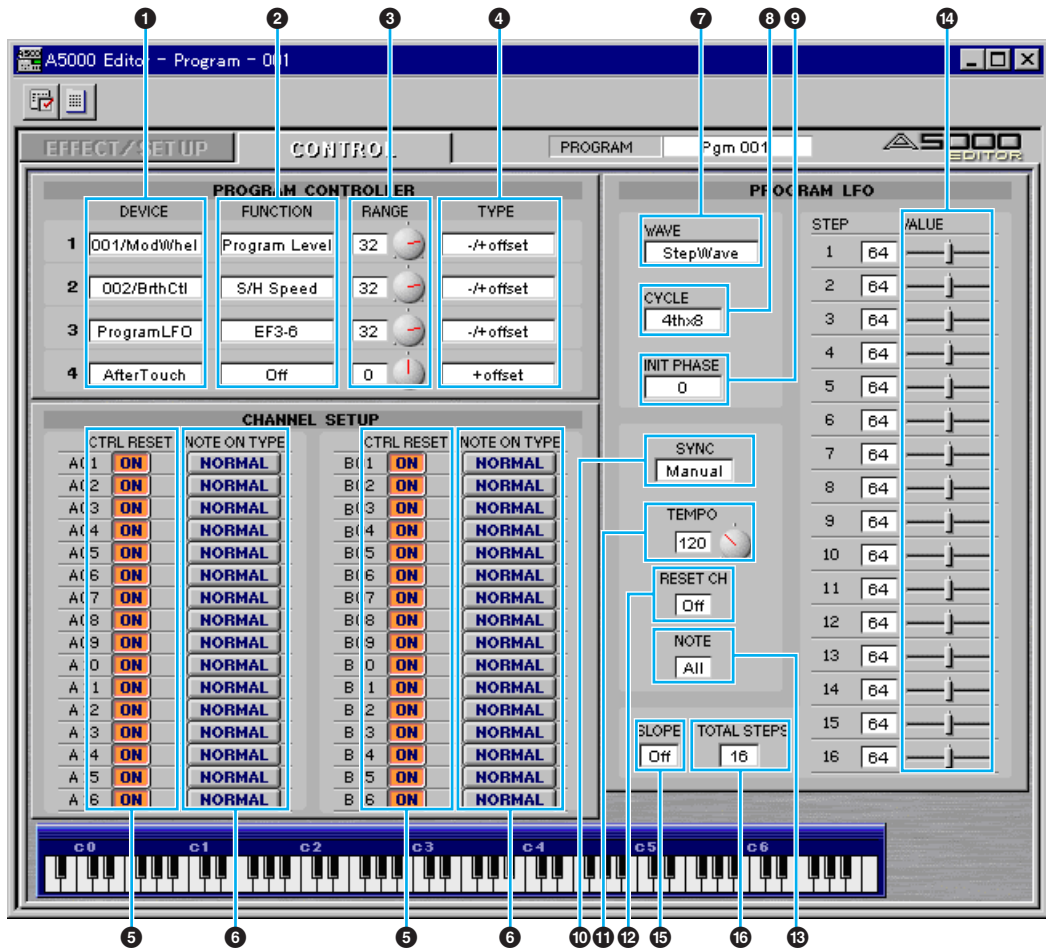
## EFFECT 1-3 (エフェクト1-3)ユニット

- ⑪ CONNECTION (コネクション)  
エフェクト1～3の接続を設定します。
- ⑫ LEVEL (レベル)  
エフェクト1～3の入力音量をそれぞれ設定します。
- ⑬ DETAIL (ディテール：詳細)ボタン  
それぞれエフェクト1～3ダイアログを開き、より細かい設定ができます。
- ⑭ エフェクトタイプ  
エフェクト1～3のそれぞれに設定されているエフェクトが表示されます。ボックスをクリックするとエフェクトタイプリストが表示され、使用したいエフェクトタイプを選択することができます。
- ⑮ PAN (パン)  
エフェクト1～3の出力定位をそれぞれ設定します。
- ⑯ WIDTH (ウイドレス)  
エフェクト1～3の出力定位の広がりをもそれぞれ設定します。
- ⑰ LEVEL (レベル)  
エフェクト1～3の出力音量をそれぞれ設定します。
- ⑱ OUTPUT (アウトプット)  
エフェクト1～3の出力先をそれぞれ設定します。コネクションの設定によって他のエフェクトへ出力されているエフェクトでは設定できません。

## EFFECT 4-6 (エフェクト4-6)ユニット

エフェクト4～6について、エフェクト1～3と同様の設定を行います。A4000エディターには、このユニットはありません。

# CONTROL (コントロール)ページ



## PROGRAM CONTROL (プログラムコントロール)ユニット

- 1 DEVICE (デバイス)**  
プログラムコントロール1~4のコントローラーデバイスをそれぞれ設定します。
- 2 FUNCTION (ファンクション)**  
プログラムコントロール1~4でコントロールされる機能をそれぞれ設定します。
- 3 RANGE (レンジ)**  
プログラムコントロール1~4のコントロールの変化幅をそれぞれ設定します。
- 4 TYPE (タイプ)**  
プログラムコントロール1~4のコントロールの効き方をそれぞれ設定します。

## CHANNEL SETUP (チャンネルセットアップ)ユニット

- 5 CTRL RESET (コントローラーリセット)**

プログラムチェンジ等によってプログラムが切り替わる際に、それまでに受信していたコントロール値をリセットするかどうかを、各MIDI受信チャンネル毎に設定します。オンでそれまでのコントロール値はリセットされ、オフで保持されます。A4000エディターには、MIDIチャンネルB01～B16の設定はありません。

#### ⑥ NOTE ON TYPE (ノートオンタイプ)

ノートメッセージの受信による発音の仕方を各MIDI受信チャンネル毎に設定します。A4000エディターには、MIDIチャンネルB01～B16の設定はありません。

### PROGRAM LFO (プログラムLFO)ユニット

#### ⑦ WAVE (ウェーブ)

プログラムLFOの波形を設定します。ここで選んだウェーブを使って、外部機器から入力されるMIDIクロックに同期した変調を行い、演奏のテンポに同期したさまざまな音の揺れを作り出すことができます。

#### ⑧ CYCLE (サイクル)

プログラムLFOの1周期となる音符を設定します。

#### ⑨ INIT PHASE (イニシャルフェーズ)

プログラムLFOの初期位相を設定します。

#### ⑩ SYNC (シンク)

プログラムLFOの同期方法を設定します。マニュアルでは設定されたテンポに同期し、MIDIでは外部機器から入力されるMIDIクロックに同期します。

#### ⑪ TEMPO (テンポ)

マニュアルシンクの場合のテンポを設定します。MIDIシンクの場合はこの設定値は無視されます。

#### ⑫ RESET CH (リセットチャンネル)

マニュアルシンクの場合には、ノートオンメッセージの受信タイミングでプログラムLFOの位相を初期化できます。その目的に使用するノートオンメッセージのMIDI受信チャンネルを設定します。MIDIシンクの場合はこの設定値は無視されます。

#### ⑬ NOTE (ノート)

プログラムLFOの位相を初期化するノートオンメッセージのノートを設定します。MIDIシンクの場合はこの設定値は無視されます。

#### ⑭ VALUE (バリュー)

プログラムLFOのウェーブにステップウェーブを選択している場合、ステップ1～16の値をそれぞれ設定し、ステップウェーブの波形を作ることができます。ウェーブがステップウェーブ以外の場合は、これらの設定値は無視されます。

#### ⑮ SLOPE (スロープ)

ステップウェーブの各ステップの間をなめらかにつなぐための方法を設定します。ウェーブがステップウェーブ以外の場合は、これらの設定値は無視されます。

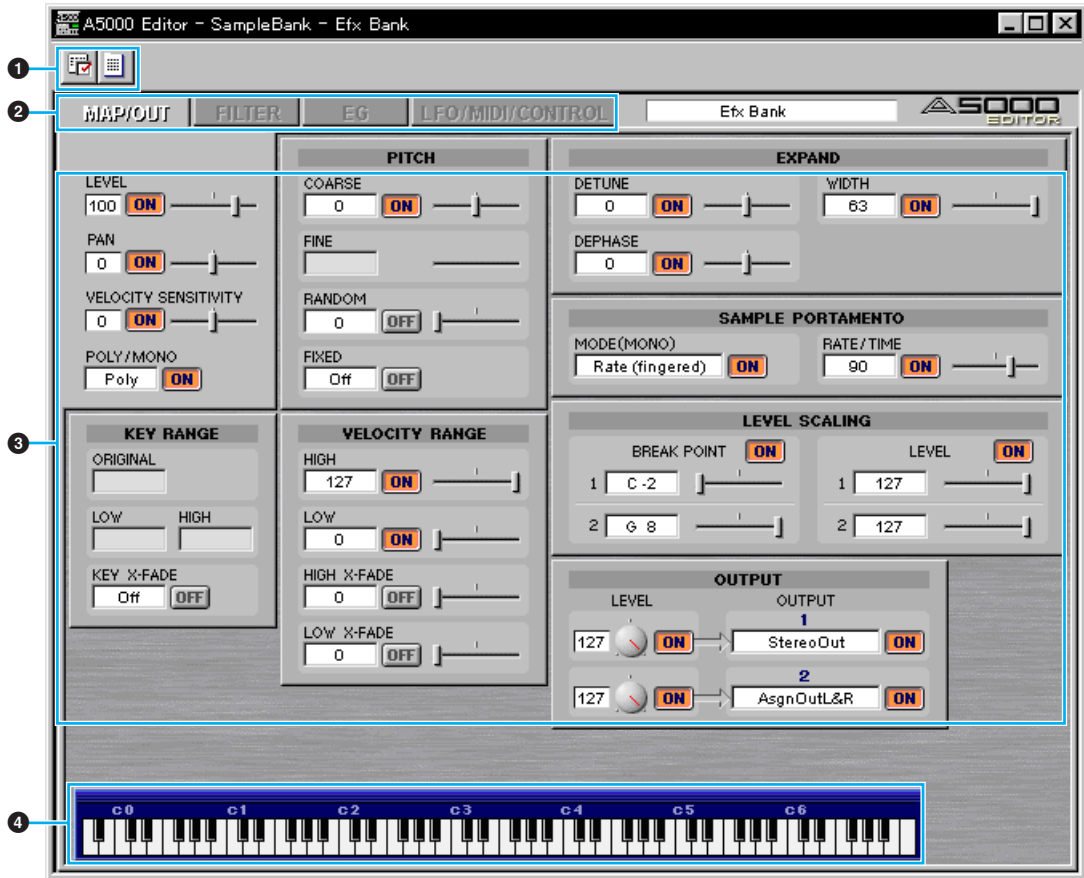
#### ⑯ TOTAL STEPS (トータルステップ)

ステップウェーブの1周期となる総ステップ数を設定します。この総ステップ数を超えるステップ位置のバリューは無視されます。

# サンプルエディットウィンドウ

サンプルエディットウィンドウでは、A5000/A4000のサンプルバンク、サンプルに関するさまざまなパラメーターを簡単に設定することができます。

- サンプルエディットウィンドウでの設定は、MIDIを通じてリアルタイムでA5000/A4000に送信されます。
- 各パラメーターについての詳細は、A5000/A4000の取扱説明書をご参照ください。



## ① ツールバー

各機能を実行するためのボタンが置かれています(P.24)。

## ② MAP/OUT (マップ/アウト)、FILTER (フィルター)、EG、LFO/MIDI/CONTROL (LFO/MIDI/コントロール) タグ

サンプルエディットウィンドウのそれぞれのページへ移動します。

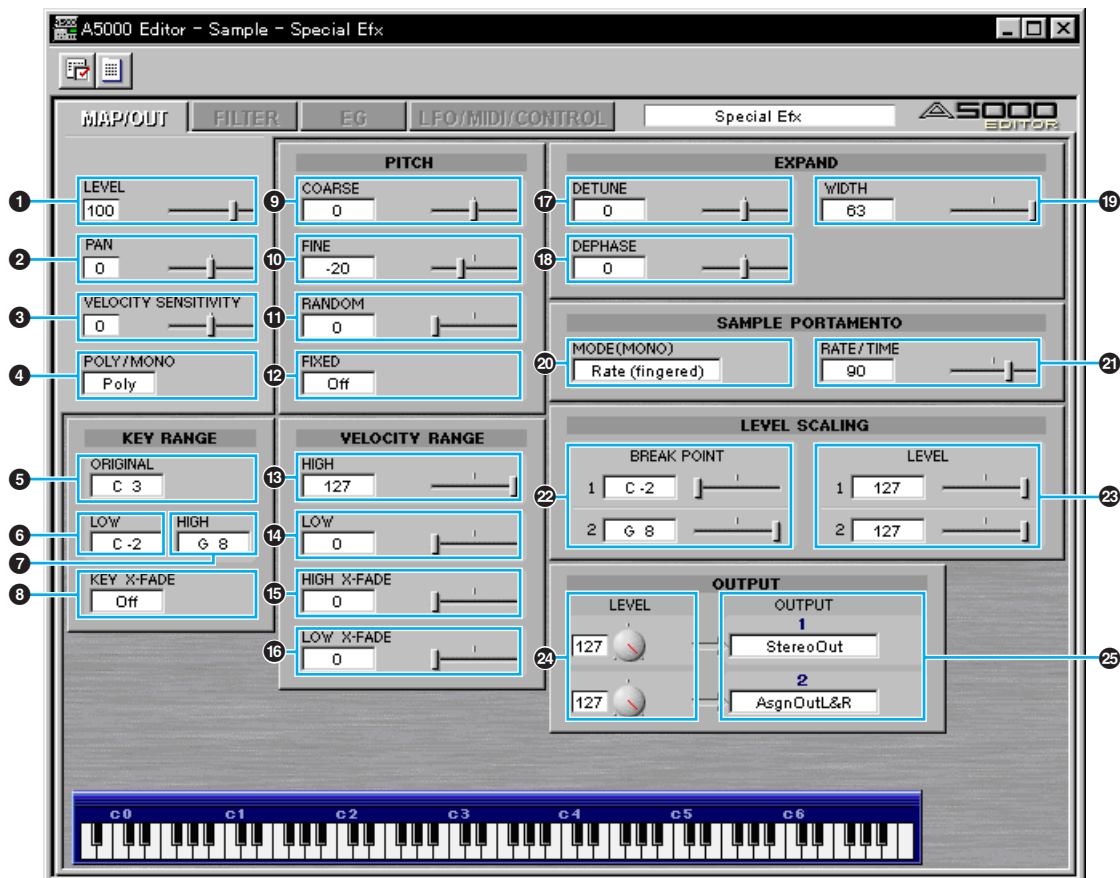
## ③ ON/OFFボタン

サンプルバンクをエディットしている場合、パラメーターごと、あるいはパラメーターのグループごとに、サンプルバンクの設定値を有効にするか、サンプルバンク内のサンプルの設定を個別に有効にするかを設定します。オンではサンプルバンクの設定値が有効となります。オフでは各サンプルの設定値が有効になり、サンプルバンクの設定値は無視されます。オフの場合にパラメーターの値を変更すると、自動的にオンに切り替わります。サンプルのエディット中には、このボタンは現れません。

## ④ 鍵盤ボタン

クリックまたはドラッグすることで、エディットの結果を聞くことができます。

# MAP/OUT (マップ/アウト)ページ



- 1 LEVEL (レベル)  
音量を設定します。
- 2 PAN (パン)  
定位を設定します。
- 3 VELOCITY SENSITIVITY (ベロシティセンシティビティ)  
音量をベロシティで変化させる場合の感度を設定します。
- 4 POLY/MONO (ポリ/モノ)  
発音方式を設定します。

## KEY RANGE (キーレンジ)ユニット

- 5 ORIGINAL (オリジナル)  
サンプルが元の音程で発音するオリジナルノートを設定します。サンプルバンクのエディットの場合は設定できません。
- 6 LOW (ロー)  
サンプルの発音鍵域の下限ノートを設定します。サンプルバンクのエディットの場合は設定できません。

7 HIGH (ハイ)  
サンプルの発音鍵域の上限ノートを設定します。サンプルバンクのエディットの場合は設定できません。

8 KEY X-FADE (キークロスフェード)  
キークロスフェードのオン/オフを設定します。

## PITCH (ピッチ)ユニット

9 COARSE (コース)  
半音単位で音程を設定します。

10 FINE (ファイン)  
コースで設定した音程を微調整します。サンプルバンクのエディットの場合は設定できません。

11 RANDOM (ランダム)  
音程をランダムに変化させる深さを設定します。

12 FIXED (フィクスト)  
発音域のどの鍵盤が押されても同じ音程で発音させるかどうかを設定します。

## VELOCITY RANGE (ベロシティレンジ)ユニット

13 HIGH (ハイ)  
発音ベロシティ域の上限ベロシティ値を設定します。

14 LOW (ロー)  
発音ベロシティ域の下限ベロシティ値を設定します。

15 HIGH X-FADE (ハイクロスフェード)  
上限ベロシティ側のクロスフェードの深さを設定します。

16 LOW X-FADE (ロークロスフェード)  
下限ベロシティ側のクロスフェードの深さを設定します。

## EXPAND (エクスパンド)ユニット

17 DETUNE (デチューン)  
音程をずらせたものを重ねて発音させる効果の深さを設定します。

18 DEPHASE (ディフェーズ)  
位相をずらせたものを重ねて発音させる効果の深さを設定します。

19 WIDTH (ウィドス)  
音程や位相をずらせたものを重ねて発音させる際の、左右の定位の広がりを設定します。

## SAMPLE PORTAMENTO (サンプルポルタメント)ユニット

20 MODE (MONO)  
サンプルポルタメントのモードを選択します。カッコ内のモードは、サンプル/サンプルバンクがモノモードの時のみ有効です。

㉑ RATE/TIME (レート/タイム)

サンプルポルタメントの変化速度または変化に要する時間を設定します。

LEVEL SCALING (レベルスケーリング)ユニット

㉒ BREAK POINT (ブレイクポイント)

レベルスケーリングのブレイクポイント1、2のノートをそれぞれ設定します。

㉓ LEVEL (レベル)

ブレイクポイント1、2のノート位置での音量をそれぞれ設定します。

OUTPUT (アウトプット)ユニット

㉔ LEVEL (レベル)

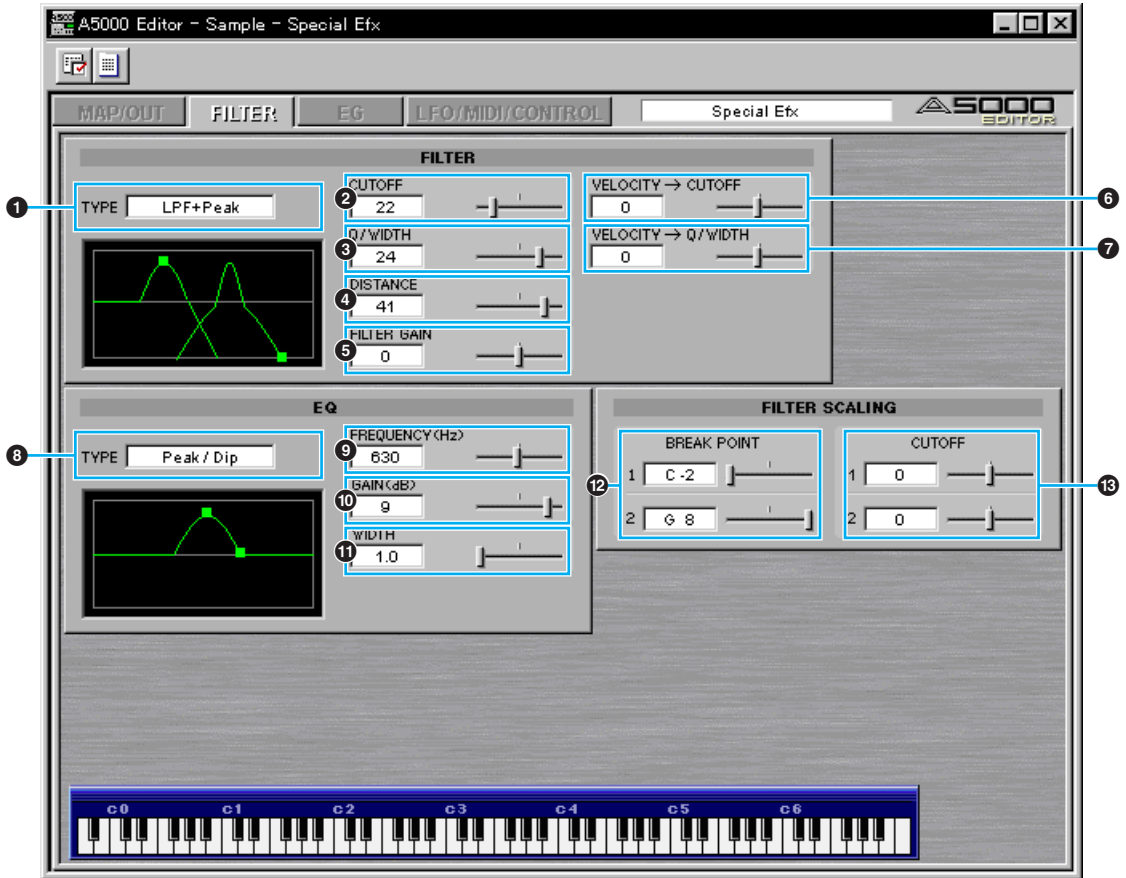
アウトプット1、2の出力音量をそれぞれ設定します。

㉕ OUTPUT (アウトプット)

サンプル/サンプルバンクの出力先を設定します。アウトプット1、2のステレオ2系統の出力が可能です。



# FILTER (フィルター)ページ



## グラフ上でのエディットの方法

グラフ上でのパラメーターの設定は、表示画面内の四角いマーカー ( ) を、表示される矢印の方向にドラッグして行ないます。

**NOTE** は重なっている場合があります。

## FILTER (フィルター)ユニット

### ① TYPE (タイプ)

フィルタータイプを設定します。

### ② CUTOFF (カットオフ)

フィルターのカットオフ周波数を設定します。

### ③ Q/WIDTH (Q/ウィドス)

フィルターのレゾナンス効果の強さや、バンドパスフィルターの通過バンド幅を設定します。

### ④ DISTANCE (ディスタンス)

2個のフィルターが複合したタイプを選択した場合、2個のフィルターのカットオフ周波数の距離を設定します。

**5 FILTER GAIN (フィルターゲイン)**

フィルターの出力音量を設定します。Q/WIDTHが大きい場合、フィルターゲインを大きくすると音が歪む場合があります。

**6 VELOCITY CUTOFF (ベロシティ カットオフ)**

カットオフ周波数をベロシティで変化させる場合の感度を設定します。

**7 VELOCITY Q/WIDTH (ベロシティ Q/ウィドス)**

Q/ウィドスをベロシティで変化させる場合の感度を設定します。

**EQ (イコライザー)ユニット**

**8 TYPE (タイプ)**

イコライザータイプを設定します。

**9 FREQUENCY (フリケンシー)**

イコライザーの周波数を設定します。

**10 GAIN (ゲイン)**

設定したフリケンシーのゲインを設定します。

**11 WIDTH (ウィドス)**

イコライザーのバンド幅を設定します。タイプによっては設定できないものがあります。

**FILTER SCALING (フィルタースケーリング)ユニット**

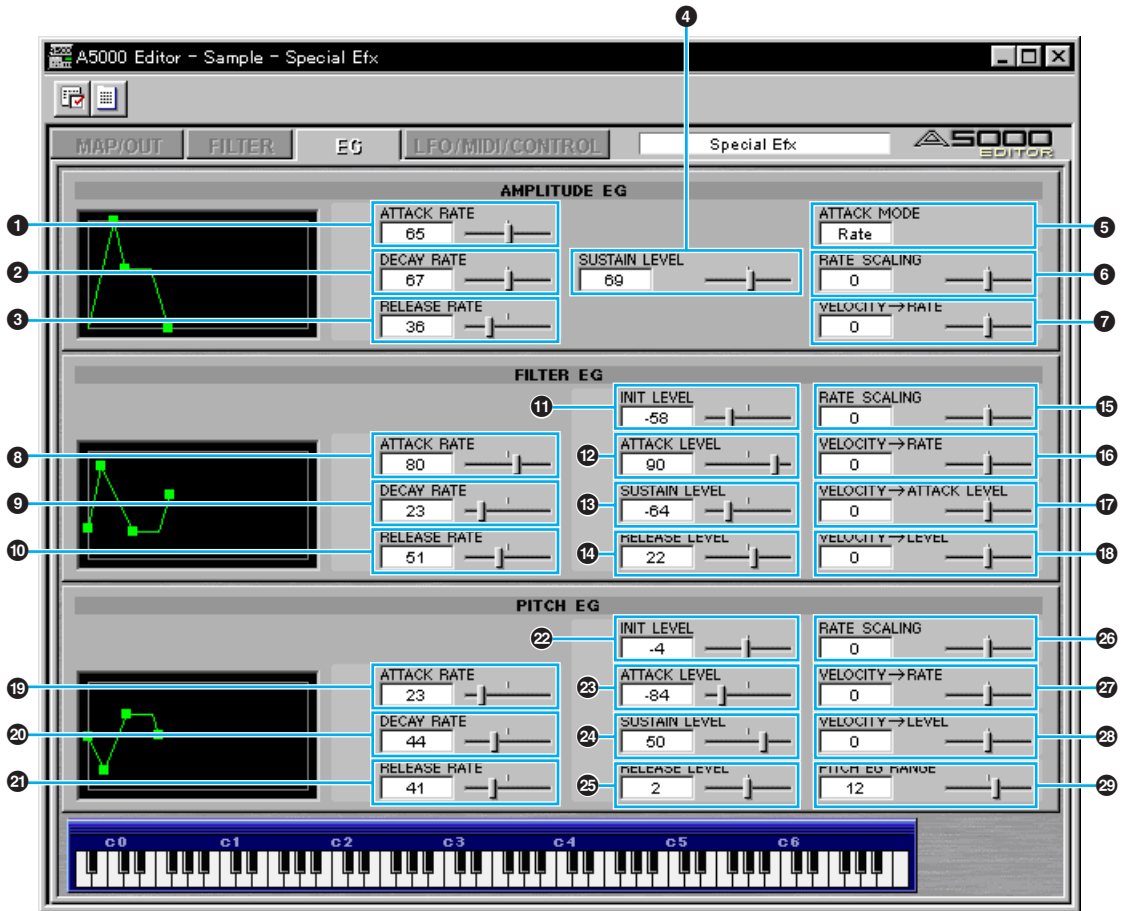
**12 BREAK POINT (ブレイクポイント)**

フィルタースケーリングのブレイクポイント1、2のノートをそれぞれ設定します。

**13 CUTOFF (カットオフ)**

ブレイクポイント1、2のノート位置でのカットオフ周波数の増減値をそれぞれ設定します。

# EG (エンベロープジェネレーター)ページ



## グラフ上でのエディットの方法

グラフ上でのパラメーターの設定は、表示画面内の四角いマーカー ( ) を、表示される矢印の方向にドラッグして行ないます。

**NOTE** は重なっている場合があります。

## AMPLITUDE EG (アンプリチュードエンベロープジェネレーター)ユニット

- 1 ATTACK RATE (アタックレート)  
音の立ち上がり速度を設定します。
- 2 DECAY RATE (ディケイレート)  
鍵盤を押している間の音の減衰速度を設定します。
- 3 RELEASE RATE (リリースレート)  
鍵盤を離れた後の音の減衰速度を設定します。
- 4 SUSTAIN LEVEL (サステインレベル)  
鍵盤を押している間の音の持続音量を設定します。

⑤ ATTACK MODE (アタックモード)

音の立ち上がりの方法を設定します。

⑥ RATE SCALING (レートスケーリング)

アンプリチュードEGの速度を発音ノートにより変化させる深さを設定します。

⑦ VELOCITY RATE (ベロシティ レート)

アンプリチュードEGの速度をベロシティで変化させる場合の感度を設定します。

## FILTER EG (フィルターエンベロープジェネレーター)ユニット

⑧ ATTACK RATE (アタックレート)

鍵盤を押した時点からアタックレベルに達するまでのカットオフの変化速度を設定します。

⑨ DECAY RATE (ディケイレート)

アタックレベルに達してからサステインレベルに到達するまでのカットオフの変化速度を設定します。

⑩ RELEASE RATE (リリースレート)

鍵盤を離れた後の音のカットオフの変化速度を設定します。

⑪ INIT LEVEL (イニシャルレベル)

鍵盤を押した時点のカットオフのオフセット量を設定します。

⑫ ATTACK LEVEL (アタックレベル)

イニシャルレベルの次の目標のオフセット量を設定します。

⑬ SUSTAIN LEVEL (サステインレベル)

鍵盤を押している間のカットオフの持続オフセット量を設定します。

⑭ RELEASE LEVEL (リリースレベル)

鍵盤を離れた後のカットオフの目標のオフセット量を設定します。

⑮ RATE SCALING (レートスケーリング)

フィルターEGの速度を発音ノートにより変化させる深さを設定します。

⑯ VELOCITY RATE (ベロシティ レート)

フィルターEGの速度をベロシティで変化させる場合の感度を設定します。

⑰ VELOCITY ATTACK LEVEL (ベロシティ アタックレベル)

イニシャルレベルとアタックレベルをベロシティで変化させる場合の感度を設定します。

⑱ VELOCITY LEVEL (ベロシティ レベル)

フィルターEGの全レベルをベロシティで変化させる場合の感度を設定します。

## PITCH EG (ピッチエンベロープジェネレーター)ユニット

⑲ ATTACK RATE (アタックレート)

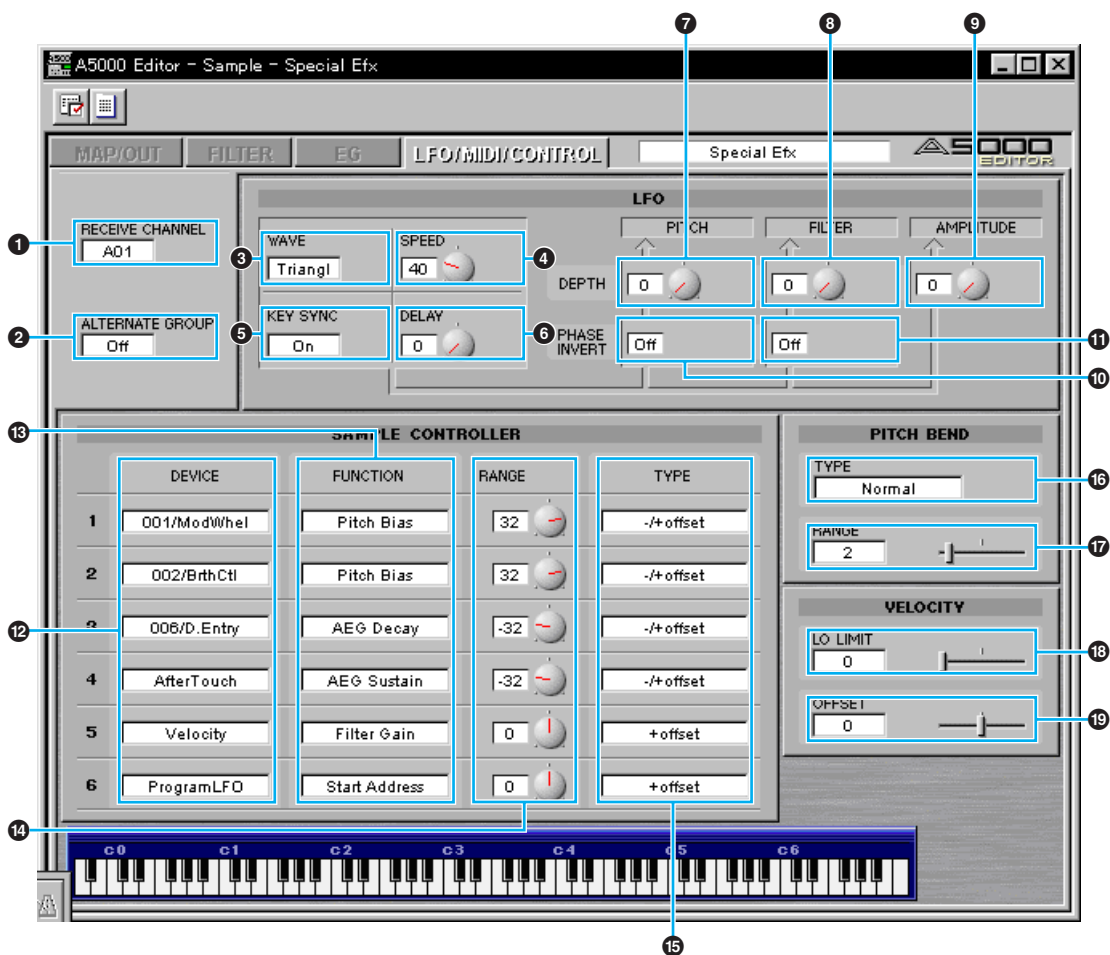
鍵盤を押した時点からアタックレベルに達するまでのピッチの変化速度を設定します。

⑳ DECAY RATE (ディケイレート)

アタックレベルに達してからサステインレベルに到達するまでのピッチの変化速度を設定します。

- ④1 RELEASE RATE (リリースレート)  
鍵盤を離れた後の音のピッチの変化速度を設定します。
- ④2 INIT LEVEL (イニシャルレベル)  
鍵盤を押した時点のピッチのオフセット量を設定します。
- ④3 ATTACK LEVEL (アタックレベル)  
イニシャルレベルの次の目標のオフセット量を設定します。
- ④4 SUSTAIN LEVEL (サステインレベル)  
鍵盤を押している間のピッチの持続オフセット量を設定します。
- ④5 RELEASE LEVEL (リリースレベル)  
鍵盤を離れた後のピッチの目標のオフセット量を設定します。
- ④6 RATE SCALING (レートスケーリング)  
ピッチEGの速度を発音ノートにより変化させる深さを設定します。
- ④7 VELOCITY RATE (ベロシティ レート)  
ピッチEGの速度をベロシティで変化させる場合の感度を設定します。
- ④8 VELOCITY LEVEL (ベロシティ レベル)  
ピッチEGの全レベルをベロシティで変化させる場合の感度を設定します。
- ④9 PITCH EG RANGE (ピッチEGレンジ)  
ピッチEGによるピッチの変化幅を設定します。

# LFO/MIDI/CONTROL (LFO/MIDI/コントロール)ページ



## ① RECEIVE CHANNEL (レシーブチャンネル)

サンプルの発音するMIDI受信チャンネルを設定します。

## ② ALTERNATE GROUP (オルタネートグループ)

ドラムキット音色などの中で同時に発音すると不自然になってしまうものを、同時に発音させないようにするための機能です。

## LFOユニット

### ③ WAVE (ウェーブ)

LFOの波形を選択します。ここで選んだウェーブを使って変調を行ない、さまざまな音の揺れを作り出すことができます。

### ④ SPEED (スピード)

LFOの周波数を設定します。値が大きいほどスピードが上がります。

### ⑤ KEY SYNC (キーシンク)

Onにするとノートオン時にLFOウェーブにリセットがかかります。

#### ⑥ DELAY (ディレイ)

ノートオンからLFOの効果がかかりはじめるまでの時間を設定します。

#### ⑦ PITCH MODULATION DEPTH (ピッチモジュレーションデプス)

LFOで音程を周期的に変化させる深さを設定します。

#### ⑧ FILTER MODULATION DEPTH (フィルターモジュレーションデプス)

LFOでフィルターのカットオフを周期的に変化させる深さを設定します。

#### ⑨ AMPLITUDE MODULATION DEPTH (アンプリチュードモジュレーションデプス)

LFOで音量を周期的に変化させる深さを設定します。

#### ⑩ PITCH MODULATION PHASE INVERT (ピッチモジュレーションフェーズインパート)

音程の揺れの上下を逆にします。

#### ⑪ FILTER MODULATION PHASE INVERT (フィルターモジュレーションフェーズインパート)

フィルターのカットオフの揺れの上下を逆にします。

### SAMPLE CONTROL (サンプルコントロール)ユニット

#### ⑫ DEVICE (デバイス)

サンプルコントロール1～6のコントローラーデバイスをそれぞれ設定します。

#### ⑬ FUNCTION (ファンクション)

サンプルコントロール1～6でコントロールされる機能をそれぞれ設定します。

#### ⑭ RANGE (レンジ)

サンプルコントロール1～6のコントロールの変化幅をそれぞれ設定します。

#### ⑮ TYPE (タイプ)

サンプルコントロール1～6のコントロールの効き方をそれぞれ設定します。

### PITCH BEND (ピッチベンド)ユニット

#### ⑯ PITCH BEND TYPE (ピッチベンドタイプ)

ピッチベンドコントロールの効き方を設定します。

#### ⑰ PITCH BEND RANGE (ピッチベンドレンジ)

ピッチベンドコントロールの変化幅を設定します。

### VELOCITY (ベロシティ)ユニット

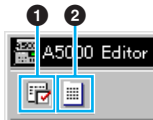
#### ⑱ VELOCITY LOW LIMIT (ベロシティローリミット)

この設定値以下のベロシティを受信した場合、この設定値に変換します。

#### ⑲ VELOCITY OFFSET (ベロシティオフセット)

受信したベロシティを、この設定値を加算した値に変換します。

## ツールバー (エディットウィンドウ)



### ① エディター設定ボタン

[エディター設定]ダイアログを開きます。[エディター設定]ダイアログについては前述(P.7)をご参照ください。

### ② メモリーリストボタン

メモリーリストウィンドウを表示します。メモリーリストウィンドウについては前述(P.6)をご参照ください。



# OMSの設定(Macintoshをお使いのお客様へ)

A5000/A4000エディターは、OMS(Open Music System)によりデータの送受信を行いません。A5000/A4000エディターをお使いになるには、あらかじめOMSをインストールし、正しくセットアップする必要があります。

**NOTE** OMSのインストールについては、別冊のインストールガイドをご参照ください。

## OMSについて

OMS(Open Music System)とは、MIDIアプリケーションとMIDIハードウェアやソフトウェアどうしのMIDIデータの送受信を総括的に管理するMacintoshの機能拡張です。現在、数多くのミュージックソフトメーカーがOMSを採用しており、Macintoshのミュージック環境構築の基本システムとなっています。OMSには次のような機能があります。

- OMS対応のアプリケーションは、OMSを介してさまざまなハードウェア(MIDIデバイス)とコミュニケーションを行いません。これらのアプリケーションは、従来のように各アプリケーションごとのドライバを必要としません。
- OMSにMIDIスタジオの構成(スタジオセットアップ)を記憶させておくだけで、OMS対応のアプリケーションはそのスタジオセットアップの設定を自動的に認識します。スタジオセットアップの設定を変更するだけで各OMS対応アプリケーションの設定は自動的に更新されます。
- OMSを使用することでユーザー独自のスタジオセットアップをより簡単に構成でき、オリジナルスタジオセットアップとして保存しておくだけで、いつでもすばやくMIDIデバイスとアプリケーションソフトにアクセスすることができます。
- OMSのスタジオセットアップアプリケーションを起動すると、接続されている各MIDIデバイスが自動的に認識され、画面上にイメージアイコンで表示されます。各デバイスのアイコンは名前、チャンネルと共に系統的にパッチングされます。一度OMSでセットアップされたデバイスは、チャンネルアサインやポートナンバーを意識することなく簡単にアクセスすることができます。
- OMSはスタンダードMIDIインターフェースおよびマルチポートインターフェースを含め、さまざまなMIDIインターフェースに対応しています。マルチポートインターフェースを使用すると、接続されているMIDIデバイスの数に応じて多数のMIDIチャンネルを使用することが可能になります。

**NOTE** OMSについて、さらに詳しくはOMSに付属のマニュアルおよびREADMEファイルなどをご参照ください。

## OMSのセットアップ

A5000/A4000エディターではA5000/A4000の標準的なセットアップファイルをあらかじめ用意しておりますので、お使いの機種に合ったファイルをお使いください。以下にA5000のセットアップ例を示します。

1. Macintoshに接続されたMIDIインターフェースと、A5000のMIDI IN-AまたはIN-B、OUT端子を相互に接続します。このときMIDI IN-A、IN-Bのうち、Macintoshと接続した側の端子を、A5000本体のUTILITYモードのMIDIファンクションのSysEx画面のReceive Portで選択しておきます(A4000ではこの設定は必要ありません)。
2. 「OMSアプリケーション」フォルダ内にあるOMS Setupアイコンをダブルクリックして起動します。
3. [ファイル]メニューの[開く]で、「OMS Setup for YAMAHA」フォルダ内にある「A5000-Modem」を開きます。  
Performaなど、モデムポートを使用できない機種の場合は「A5000-Printer」を開きます。
4. [ファイル]メニューの[セットアップを有効にする]を選びます。  
これでA5000用のセットアップが、現在のスタジオセットアップとして登録されます。
5. [ファイル]メニューの[終了]でOMS Setupを終了します。

**NOTE** A5000/A4000エディターは、OMSの2.0より古いバージョン(1.X)には対応していません。

## OMSポートの設定

OMSが正しくセットアップされたら、A5000/A4000エディターを起動し、OMSポートを設定します。

1. A5000/A4000エディターのアプリケーションアイコンをダブルクリックして、A5000/A4000エディターを起動します。

**NOTE** Apple Talkがオンの場合は、A5000/A4000エディターの起動時にアラートが出ます。その場合「オフにする」をクリックしてください。Apple Talkの切り替えには時間がかかります。

2. A5000/A4000エディターの[MIDI]メニューから[OMSポート設定]を選びます。

[OMSポート設定]ダイアログが表示されます。

以下はMIDI機器にA5000を使用し、OMSのセットアップにA5000用セットアップを使用した場合の例です。



MIDI In: 「A5000」を選択します。

MIDI Out: 「A5000」を選択します。

3. [OK]をクリックして、設定を終了します。

# トラブルシューティング

「音が出ない」、「正常に動作しない」などといった場合には、まずA5000/A4000との接続を確認したあと、以下の項目をチェックしてください。また、Windows版のA5000/A4000 Editorをご使用の場合は、XGworks(lite)に付属の取扱説明書のQ&Aもご参照ください。

## <Windows/Macintosh共通>

**スライダーやノブを操作しても音色(音の聞こえ方)が変わらない。**

- エディター設定(OMSポート設定)の出力ポート(MIDI Out)やDeviceNo.が正しく設定されていますか？(P.7)

**パラメーターチェンジの送信ができない。**

- エディター設定(OMSポート設定)の出力ポート(MIDI Out)やDeviceNo.が正しく設定されていますか？(P.7)

**エディットウィンドウ上のキーボードをクリックしても発音しない。**

- エディター設定のMIDI Chが正しく設定されていますか？(P.7)

## <Windows>

**プラグインメニューにA5000/A4000エディター名が表示されない。**

- A5000/A4000エディターが、XGworks(lite)と同じフォルダにインストールされていますか？ XGworks(lite)と同じフォルダにインストールされていない場合は、A5000/A4000エディターをインストールし直してください。

**Bulkデータの受信ができない**

- XGworks(lite)のシステムセットアップのMIDI Inで適切なドライバが選択されていますか？
- エディター設定のDeviceNo.が正しく設定されていますか？(P.7)

**エディター設定の出力ポートで選択したいポート名が表示されない。**

- エディター設定の出力ポートは、XGworks(lite)のシステムセットアップのMIDI Outで設定されているポートの中から選択できます。XGworks(lite)のシステムセットアップでMIDI Outの設定を確認してください。

## <Macintosh>

**プリンターポートが認識できない。**

- Apple Talkがオンになっていると、プリンターポートは使用できません。Macintoshの機種によっては起動時に自動的にAppleTalkをオンにするものもありますので注意してください。
- OMS MIDIセットアップ画面で、「Printer」がチェックされているか、ご確認ください。

**モデムポートが認識できない。**

- Performaシリーズなど、一部のMacintoshではモデムポートが使用できず、プリンターポートのみ使用可能となります。
- OMS MIDIセットアップ画面で、「Modem」がチェックされているか、ご確認ください。

**MIDI IN/OUTできない。**

- OMSポート設定で、出力先がunknownになっていませんか？ OMSのポート変更や、セットアップを変更したあとは、A5000/A4000エディターのOMSポート設定画面で、OMSの入力/出力ポートを選択しなおす必要があります。適切な出力先を選択してください(P.26)。
- ケーブルを接続したポートと同じポートが、OMSで選ばれていますか？ OMS MIDIセットアップ画面を開き、該当するポートがチェックされているか確認してください。
- 頻繁にポートやセットアップを変更すると、OMSがシリアルポートをうまく認識できないことがあります。Macintoshを再起動して、OMSを正しく設定したのち、A5000/A4000エディターを起動してください。

**メモリーリストデータの受信ができない。**

- OMSポート設定のMIDI Inは正しく設定されていますか？(P.26)
- エディター設定のDeviceNo.は正しく設定されていますか？(P.7)